

「先生！できたで！」の声が聞こえる授業づくり

— 中学部 理科 —

大阪精神医療センター分教室

1 はじめに

小児精神科病棟に付設する本分教室には、読み書き・言語理解の苦手さや長い学習空白が背景にあり、学習への苦手意識が強く、学習意欲が低い生徒が多く在籍する。

担当する中学部理科の授業では理科への興味を引き出し、生徒の学習意欲を高めようと積極的に実験を行った。すると「今日は何の実験すんの？」と生徒が実験を楽しみにする様子が見られるなど、一定の手ごたえを感じていた。しかし、この方法では知識定着の時間が十分にとれず、結果として、地域校の定期テストで思うような点数がとれていない生徒がいた。その中には、学習意欲を失くしてしまう生徒もみられた。

この経験から、生徒の学習意欲を引き出すために、よりよい方法を模索する中で内発的動機を引き出す要素として、「自律性」「有能感」「関係性」が重要であることを知った（自己決定理論）。そこで、自分で決められる（＝自律性）こと、自分はできていると感じられる（＝有能感）こと、周囲の仲間と関わりながら学習する（＝関係性）ことを重視した授業づくりをめざした。本稿ではその実践について報告する。

2 実践の内容

(1) 授業の構造

授業の流れ	学習活動	取り入れた要素
導入（5分～15分）	①『仲間と一緒に活動に取り組もう！』	【関係性】
↓ 個別学習（35分～45分）	②『学習の目標を自分で決めよう！』 ③『学習方法を自分で決めよう！』	【自律性】
	④『学習を振り返ってみよう！』	【有能感】
	⑤『わからない問題を教えあおう！』	【関係性】

(2) 具体的な授業の流れ

導入 部分

- ①『仲間と一緒に活動に取り組もう！』
 - ・生徒同士が協力して実験を行う。
 - ・元素記号カードゲーム、クイズアプリなどに生徒全員で楽しみながら取り組む。

個別学習 部分

- ②『学習の目標を自分で決めよう！』

定期テストの目標点数、高校進学を見据えた目標など、生徒の希望を引き出し、言語

I 実践報告

化して書き残す。

③『学習方法を自分で決めよう！』

- ・教員が教える授業（以下「教員授業」）
- ・授業動画での学習（以下「動画学習」）

この2つの学習方法を体験し、どちらで学習するか決める。

<工夫したこと>

- ・生徒が自分なりの勉強の仕方を希望する場合は学校ルールの範囲内でその方法を認める。（例：教科書を見ながらノートに書き写す）
- ・複数人が「教員授業」を選択した場合、教員が5分ずつ教えて回る。（待機中の子どもは各自の自習課題に取り組む）
- ・「動画学習」を選択した場合、eboard（オンライン動画学習サイト）を視聴して自ら学習を進める。自分のペースで学習をすすめ、教員が巡回してきた際に質問や理解度の確認を行う。

④『学習を振り返ってみよう！』

確認問題に取り組み、理解度を確認し、課題を見つけ、分析して、対策を考える。

⑤『わからない問題を教えあおう！』

問題がわからず困っている生徒がいた際には、すでにその内容を学習している生徒が教える。

3 実践事例

(1)生徒の様子

生徒A（中学2年 男子）

人と関わることが好きで、クラスの仲間と良好な人間関係を築いていた。一方で学習への苦手意識が強く、授業中にわからない問題が出てくると「しんどくなってきた」と言って病棟に帰ることが度々あった。また、聴覚情報を理解するのが苦手で、教員が口頭で説明したことを一度で理解することは難しかった。板書も苦手で、プリントに書き写すのに時間を要し、誤字も多い。

(2)授業の様子

導入部分

①『仲間と一緒に活動に取り組もう！』

- ・ペットボトル内に雲を発生させる実験では教科書の説明を見ながら生徒同士で協力して実験を進めた。仲間が「入れる水の量もっと増やしたら？」と言うと、生徒Aは「じゃあ俺入れてくるわ」といって率先して実験の準備を行った。さらに「ペットボトル温かくなってきた気がする」と仲間が言うと、生徒Aは「うそ、触らせて」と言うなど、他の生徒と関わり合いながら積極的に実験に取り組んでいた。
- ・元素記号カードを使って元素の名前と元素記号を一致させるアクティビティを生徒全員で行った際には、他の生徒が元素記号を間違えずに答える様子を見て「すごいなー。でも、俺も前より覚えることできたで。」と言い、他の生徒を意識しながら熱心に取り組んでいた。

I 実践報告

個別学習 部分

②『学習の目標を自分で決めよう！』

- ・学習の目標を教員と考える際には、「定期テストで、今までで一番いい点数をとりたい（20点以上）」と述べたので「30点」を目標とすることとした。

③『学習方法を自分で決めよう！』

- ・学習方法を定める際には、「教員授業」と「授業動画」の両方を試した上で「俺は動画の方が勉強できそう」と言って「授業動画」を選択。自分で決めた学習方法だったからか、どんどん動画を見て学習を進めた。

④『学習を振り返ってみよう！』

- ・学習を振り返るために、動画を見ている生徒 A に「わかる？」と教員が尋ねた際には、「うん」と答えた。しかし、確認問題を解いてみると全然解けなかった。教員が「なんで解けなかったか、一緒に考えようか。」と提案し、生徒 A と何が課題かを考え、分析し、対策を考えた。（以下 2 点は本人が語った課題、そして、教員と一緒に話し合った分析と対策）

課題①：説明されたことを忘れてしまうから、確認問題に答えられない

分析：教員 「動画の説明を聞いた直後でも答えられないことが多いよね。忘れる、というより、言葉の説明が多いとわかりにくくなって覚えられないのでは？」

対策：言語情報が少なく視覚的に理解しやすい動画を試す

生徒 A 「わかりやすかった。」

教員 「見てわかる動画が A くんにはあっているね。今後もこういう動画で勉強するといいかもね。」

課題②：問題文を読んでも何を聞かれているのかがわからない

分析：教員 「文字が見えにくい？」

生徒 A 「どうやら。わからへん。」

教員 「一度、道具を試してみようか。」

対策：読む行をハイライトする拡大鏡を使用する

生徒 A 「使ったほうが見やすい。」

教員 「背景に色があるほうが A くんは見やすいのかもね。今後も問題文を読むときはこの道具を活用してもいいかもね。」

その後、確認問題の正当率が上がったので、対策がうまくいったことを生徒 A と確認した。

- ・生徒 A が自ら学習を振り返り、工夫する姿も見られた。「元素記号の問題をした後にしんどくなることが多いから、元素記号以外の部分がんばる」と教員に伝えた。学習を振り返り、対策する習慣がついたことが背景にあると考えられる。また、学習の目標を最初に決めていたことで、すべての内容を頑張らなくていいと考えることができるようになっていたことも背景にあるだろう。

⑤『わからない問題を教えあおう！』

- ・他の生徒（生徒 B）が問題を解けずに困っていた際に、教員が「A 君はこの前勉強し

I 実践報告

たよね。Bさんに教えてきてあげて。」とお願いすると「えー、俺も忘れた。」と言いつつも自分の言葉で何とか説明することができた。生徒Bは「なんとなくわかった気がする。ありがとう。」と生徒Aに感謝を伝えていた。

4 最後に

生徒Aはテストで目標の点数をとることができた。そして、テスト後「先生！できたで！」と嬉しそうに教員に報告をしてくれた。テストの点数は決していい点数とは言えなかったが、自分で目標を決め、工夫しながら目標を達成した経験は本人にとって自信に繋がるものであったと思う。

一方で、実践を通して課題も見つかった。在籍生徒が増えると教員と一緒に学習を振り返る時間をとることが難しいことや、個に応じた学習方法を追求すると、他者との関わりの機会が限られてしまうことなどである。今後の実践ではこうした課題を解決できるように工夫していきたい。